

2024年7月 マーケット概況

資産クラス	指数	4月	5月	6月	7月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	38405.66	38487.90	39583.08	39101.82	-1.22%	16.85%
	グロース250	647.40	618.49	661.24	648.20	-1.97%	-8.24%
海外株式	NYダウ平均	37815.92	38686.32	39118.86	40842.79	4.41%	8.37%
	S&P500	5035.69	5277.51	5460.48	5522.30	1.13%	15.78%
	NASDAQ総合	15657.82	16735.01	17732.60	17599.40	-0.75%	17.24%
	MSCI EUROPE	2061.89	2146.61	2095.46	2139.10	2.08%	5.88%
新興国株式	上海総合指数	3104.824	3086.813	2967.402	2938.749	-0.97%	-1.22%
	SENSEX	74482.78	73961.31	79032.73	81741.34	3.43%	13.15%
海外金利	米政策金利 (FF金利)	5.50	5.50	5.50	5.50	-	-
	米国債10年	4.6819	4.5025	4.3920	4.0334	-	-
国内金利	政策金利 (無担保コール)	0.076	0.077	0.076	0.079	-	-
	10年物国債	0.8720	1.0720	1.0420	1.0600	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	157.80	157.31	160.83	149.98	-6.75%	6.32%
	ユーロ	168.28	170.54	172.30	162.35	-5.77%	4.29%
コモディティ	WTI (原油先物)	81.93	76.99	81.54	77.91	-4.45%	8.74%
	NY金 (先物)	2302.9	2345.8	2339.6	2473.0	5.70%	19.36%
不動産	東証REIT	1808.73	1741.01	1724.02	1722.58	-0.08%	-4.67%
ヘッジファンド	HFRX指数	1437.90	1446.53	1451.07	1461.81	0.74%	3.65%

データ出所 : Refinitiv

【 7月の金融市場 】

7月の日本株式市場は、月前半は日経平均で最高値を更新するなど強気相場でしたが、後半は一転して大幅反落となり波乱の動きとなりました。ファンダメンタルズというよりSQ絡みの短期筋の動向が値動きを荒くした面があったようです。日経平均の月間騰落率は結局-1.2%となり、月中瞬間高値7.2%高から大幅に値を消しています。TOPIXもほぼ同様に-0.5%と小幅下落し、東証グロース250指数は、先月の反動もあり-2.0%とさらに軟調相場となりました。

米国株式市場は、半導体などのハイテク株は月半ばに大幅上昇から急反落に転じる動きがみられました。一方、景気敏感株は、9月にも利下げが開始され米景気がソフトランディングに向かうのではとの期待から底堅い値動きとなりました。NYダウは月間で+4.4%と小幅ながら3カ月連続高となっています。ハイテク株中心のNASDAQは結局-0.8%と先月の大幅高から反落して取引を終えました。

米国10年債金利は、6月の消費者物価指数（CPI）が大幅に鈍化したことやパウエルFRB議長が9月利下げ開始を示唆したことから月末にかけて大きく低下しました。月初の4.4%水準から月末には4.0%近辺まで低下しています。

ドル円相場は、米国の金利低下と月末の日銀の追加利上げを受けて、急反発の動きとなりました。月前半の160円台から月末には150円近辺まで一気に円高が進みました。

大阪金先物は、堅調な国際金相場と円安要因により月半ばには12600円台の最高値をつけましたが、その後はリスクオフや円高反転により一時11600円台まで1,000円幅以上急落する荒い値動きになりました。

【 今後の見通し 】

日本株は8月に入り大きな波乱相場になっています。日経平均は7月11日につけた42426円の高値から8/5安値31156円まで11000円幅下落するという歴史的急落に見舞われました。特に8/5は一日で5000円近い下げとなり大混乱の様相となりました。急激な円高を受けて円キャリートレードの大規模な巻き戻しや信用取引の手仕舞い売りなどスパイラル的な動きが下げに拍車をかけました。ただ、日本経済の先行きに関し重大な悪材料が出たわけではありません。システム売買の影響などオーバーシュートがあったと考えます。これ以上の下値は乏しく、株式市場は徐々に落ち着きを取り戻すと見ています。

米国株式市場では、7月半ば頃までは景気指数の減速や労働指標の悪化をインフレ緩和による金利低下期待としてポジティブに捉えていました。ただ、7月後半以降に利下げが現実を帯びてからは同様のデータが景気悪化懸念としてネガティブ反応につながっています。米国株は過去の事例からも、ターミナルレートを経て初めて利下げに転じるあたりで本格的な株価調整を迎えることが多く要注意の局面と考えます。加えて、大統領選の年は9月頃から11月初旬の選挙にかけ株安とのアノマリーがあって今回は前倒し気味に調整期入りしている可能性があります。

8/1~3の日本株の急落は、従来なら1ヶ月程度かかる下落幅を3日という短期間で到達したイメージです。ヘッジファンドを中心に積み上がった円売り、株買いポジションの解消というテクニカル要因があり、結果的に米国経済の減速や株価調整を一気に織り込む動きになったと考えます。TOPIXの予想PERは8/5安値（2207）では12倍台前半まで低下しました。アベノミクス以降の平均（15倍台）より2割程度低い水準です。逆に言えば、今期20%減益を織り込んだとも言えますので、ここからの景気後退懸念による株価下落リスクは限定的と考えます。中長期の観点で、高値からの値下がり幅の大きい主要銘柄の押し目買いが有効な戦略でしょう。8-9月の日経平均予想レンジは33000円~38000円です。

【 7月のヘッジファンド 】

米調査会社ヘッジファンドリサーチ社が算出する7月のヘッジファンド・インデックスは+0.74%と続伸しました。

7月は落ち着いた米債券市場を背景に株式市場は堅調に推移し、日米ともに主要指数は史上最高値を更新する動きとなりました。しかし決算発表で、期待が大きかったテクノロジー銘柄を中心に売りが先行すると、株式市場は一気に調整色を強めました。

また、為替市場では、金融当局の政策を反映して日米の金利差が縮小し、円で調達した資金をドルで運用する円キャリー・トレードの巻き返しが起こりました。月初めに160円台だったドルは149円台と大きく下落して終わりました（前項参照）。

このような中、ヘッジファンドはマクロとCTAを除く戦略でプラスの成績となりました。

【株式・ロングショート】(+0.74%) ※（）は前月比

テクノロジー株やコミュニケーション株が大きく下落する一方で、景気敏感株やディフェンシブ株が堅調だったことから、バリュエーションが高い銘柄を売り、安い銘柄を買っていたファンドが特に成績を伸ばしました。エヌビディア、アマゾン、メタ、アルファベットなど、直近の株式市場の上昇を牽引してきた銘柄が大きく下落しましたが、ヘッジファンドはそれらの銘柄をショート（売り）していたことで利益を確保出来ました。

【イベント・ドリブン】(+1.46%)

6月の決算発表のイベントに絡む取引が収益に繋がりました。決算発表前にポジションを積み上げ、発表後にポジションを解消するというような内容です。決算発表時に株価は大きく動くためにヘッジファンドにとっては貴重な収益機会となります。中には好決算を発表しても期待に沿わないと売られる銘柄もあり、運用者のリサーチ力が試される戦略でもあります。

【レラティブ・バリュー】(+1.18%)

米10年国債の価格が緩やかに上昇（利回りは低下）し、資産価値の上昇に繋がりました。米国では消費者物価指数の上昇が落ち着いてきた事に加えて、雇用の伸びが芳しくないことから月後半にかけて金利が更に低下しました。また、米国債市場において長短金利の逆鞘が解消される方向に動いたことから、スプレッドを買っているファンドは成績を上げました。

【マクロ】(-1.11%)

ドルインデックスの急速な低下が戦略のマイナスに繋がりました。ドル/円においては、1ドル160円台から149円台に下落。円キャリー・トレードなどでドルを保有するファンドにとっては大きな痛手となりました。また、日米の株安もマイナスに働きました。

【CTA】(-2.55%)

主要な運用先であるWTI（原油先物）の下落の影響を受けました。米国経済の後退懸念を背景に、市場がリスクオフの動きになったことが大きな要因です。また、金価格が上昇するなど、コモディティ市場で商品間の相関関係が乱れたこともマイナスに影響しました。

ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績（月別騰落率）

	年初来	2024年					
		7月	6月	5月	4月	3月	2月
ヘッジファンド・インデックス	3.65%	0.74%	0.31%	0.60%	-0.54%	1.26%	0.92%
株式ロング・ショート	5.85%	0.71%	1.21%	1.25%	-0.80%	1.35%	1.36%
イベント・ドリブン	2.69%	1.46%	0.03%	0.47%	-0.57%	1.06%	0.44%
レラティブ・バリュー	2.29%	1.18%	0.29%	0.72%	-0.59%	0.53%	0.18%
マクロ	3.43%	-1.11%	-0.74%	-0.51%	0.05%	2.50%	2.08%
CTA	4.21%	-2.55%	-1.72%	-0.79%	0.80%	3.15%	3.85%

データ出所：ヘッジファンド・リサーチ社

インドの投資信託取扱いスタート！

8月5日の日経平均株価は前週末終値に比べ4451円安で取引を終え、過去最大の下げ幅となりました。7月31日に日銀が利上げを決定した後、8月2日に発表された米国の雇用統計が予想より悪く、景気後退が懸念されたことが嫌気されたと思われます。

このまま人気の米国だけに投資をし続けていても大丈夫か？その他の国にも投資をした方がいいのか？と悩まれる方が多くいると考えられます。

もうインドの魅力をご存知の方は多いと思いますがインドは現在世界で一番人口が多く、名目GDPにおいても、2027年には日本やドイツを抜き、世界3位になることが予想されています。過去にインドについて取り上げましたので、こちらの記事もご覧ください。

「今話題のインド」(2023年8月)

そこで、弊社が2024年8月5日から取扱を開始する2つの投資信託「iFreeNEXT インド株インデックス」「ダイワ・ダイナミック・インド株ファンド」についてご紹介致します。

ぜひこの機会に、インド関連の資産をご自身のポートフォリオに組み入れられてはいかがでしょうか。

光世証券取り扱い投資信託

ファンド名	iFreeNEXT インド株インデックス	ダイワ・ダイナミック・インド株ファンド
委託会社	大和アセットマネジメント	大和アセットマネジメント
信託設定日	2023年03月13日	2007年12月26日
信託期限	無期限	無期限
決算日	毎年3月12日 (休業日のときは翌営業日)	毎年6月16日および12月16日 (休業日のときは翌営業日)
収益分配	年1回	年2回
当初元本	1口1円	1口1円
申込単位	3000円以上1円単位	3000円以上1円単位
申込手数料	かかりません。	年率1.65% (税抜1.5%)
換金手数料	かかりません。	かかりません。
換金代金	原則、換金受付日から起算して6営業日目からお支払いします。	原則、換金受付日から起算して6営業日目以降にお支払いします。
信託報酬	純資産総額に対して 年率0.473% (税抜0.43%)	純資産総額に対して 年率1.848% (税抜1.68%)
信託財産留保額	かかりません。	かかりません。
魅力	低コストで投資が出来るインデックスファンド！	分配金を得たい方にお勧め！

iFreeNEXT インド株インデックスは、Nifty50指数の動きに連動したものになっています。

※Nifty 50指数とは

Nifty 50指数は、インドを代表する株価指数で、インド・ナショナル証券取引所に上場する銘柄のうち、時価総額、流動性、浮動株比率等の基準を用いて選定した50銘柄の株価を時価総額比率で加重平均し、指数化したものです。Nifty 50指数は、インドを代表する株価指数で、インド・ナショナル証券取引所に上場する銘柄のうち、時価総額、流動性、浮動株比率等の基準を用いて選定した50銘柄の株価を時価総額比率で加重平均し、指数化したものです。

こちらは低コストで投資が出来る点が非常に魅力的です。あまりコストをかけずにインドに投資をしたいとお考えの方には、こちらがおすすめです。

「ダイワ・ダイナミック・インド株ファンド」は、インドの株式に投資を行い、中長期的な成長を目指したものになっています。

魅力

分配金を得たい方にはおすすめ！

※将来の分配金のお支払い及びその金額について保証するものではないので、ご注意ください

分配の推移 (10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 1,350円 設定来分配金合計額: 3,880円

決算期	第21期 18年6月	第22期 18年12月	第23期 19年6月	第24期 19年12月	第25期 20年6月	第26期 20年12月	第27期 21年6月	第28期 21年12月	第29期 22年6月	第30期 22年12月	第31期 23年6月	第32期 23年12月
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	30円	950円	500円	200円	850円	600円	750円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

(参照: [ダイワ・ダイナミック・インド株ファンド交付目論見書](#))

日経平均



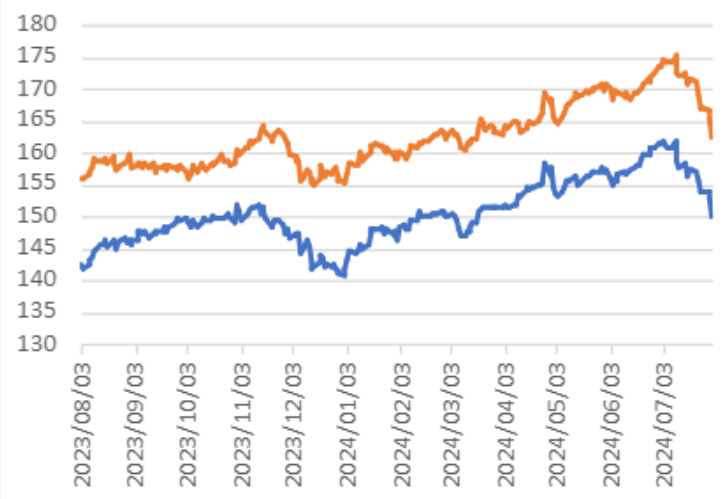
NYダウ



— 米国10年債利回り — 日本10年債利回り



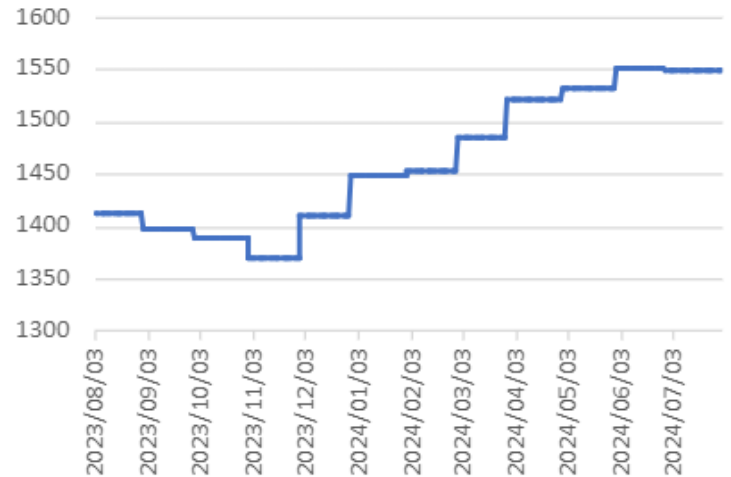
— ドル円 — ユーロ円



日経VI指数



Bloomberg全ヘッジファンド指数



<執筆者>

株式・債券・為替 … 西川 雅博

オルタナティブ(ヘッジファンド) … 樋爪 功次

そうだったのか! 「知って納得、証券投資」 Vol. 181
インドの投資信託取扱いスタート! … 石田 航輝

<編集責任者>

樋爪 功次

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。
本資料の表・グラフのデータ出所：REFINITIV、Bloomberg 他

K 光世証券

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号 加入協会：日本証券業協会

本店 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL：06-6209-0821

東京店 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL：03-3667-7721

